

## フィールドワーク学習会（長崎県立大・国際社会学部）

6月19日（月）に、長崎県立大学国際社会学部の小原篤次准教授による「フィールドワーク学習会」を実施しました。フィールドワークの有用性や事前学習の大切さについての講義の後、長崎県立大の学生へ英語でのインタビューの実習を行いました。小原准教授からは、フィールドワークにおける事前学習の大切さをご教示いただきました。生徒たちは現地調査で十分な理解を得るため、比較対象について調べようと考えようになりました。また「インタビュー活動では相手をリスペクトする気持ちが大切である。」とお話いただきました。今後実施されるフィールドワークに向けて、生徒は心構えを作ることができたようです。



## S G H 講演会・意見交換会①（RECNA）

6月20日（火）に、長崎大学核兵器廃絶研究センターの吉田文彦副センター長をお招きし、講演会・意見交換会を実施しました。吉田先生には「核兵器の現状 廃絶への挑戦」というテーマでご講演をいただき、核兵器に関する基礎知識、核廃絶に関する諸問題などについて具体的にお話しをいただきました。「核をなぜ保有するのか?」「核の抑止力とは?」「本当の平和とは?」など、答えの見えないものへの挑戦とも言える研究をこれから行っていく生徒たちにとって、とても意義深い時間となりました。



## S G H 講演会・意見交換会②（多文化社会学部）

6月20日（火）に、長崎大学多文化社会学部の見原礼子准教授をお招きし「学校教育を相対化する」というテーマでご講演いただきました。「相対化」という考え方についてお話しいただき、物事を客観視することの大切さを教えていただきました。また、各国の学校教育の体制や現状についてご講義をいただきました。生徒は、この講義を受けて「外国では、フリースクールやオルタナティブスクールなどの援助が手厚いことに驚いた。」「性的少数者への配慮について今後の課題があることを知った。」「相対化という考え方で新たな課題を発見することができそうだ。」と、それぞれの課題研究への視野を広めることができたようです。

